

波が寄せ寄せては輝く青き海
広がりゆけり夏が近づく
(跡上浩子)

脇本海岸 渚だより

FB ページには他の記事もあります
<https://www.facebook.com/kamechidori>

N P O 法人

脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会

第 10 号 (期間 : 2024 年 4 ~ 6 月)

ウミガメの死骸漂着多い

今年はすでに 5 頭のウミガメの死骸が漂着しています。3 月には脇本海岸の中央付近に中型のアオウミガメの死骸が漂着し、4 月には海岸の北にある若宮神社前の波打際にウミガメが浮いているのが発見され引き上げました。全長約 140cm の大型のアオウミガメで、4 人で何とか陸に引き上げました。鹿児島大水産学部の学生さん 2 人が駆けつけ、夜中までかかり解剖調査しました。死んで間もないためまるで生きているようでした (写真)。外傷も内蔵などの異常も見当たらず死因は不明ですが胃腸内にはイギリス (テングサに似た海藻) が充満していました。



その後も脇本海岸に中型、5 月に入り黒之浜漁港に大型、高之口漁港に中型のアオウミガメの死骸が漂着しました。死骸は脇本海岸に上陸するアカウミガメではないとはいえ、海で起きている異変が心配です。

ウミガメの上陸産卵状況

今年の初上陸は 6 月 1 日に 2 か所観測されました。昨年は 5 月 26 日だったので昨年よりは若干遅いですが例年並みの上陸開始です。1 か所は上陸してすぐに海に帰っています (写真左)。もう 1 か所は、状況から判断して産卵しているはずですが卵は発見できませんでした。同じカメと思われる 2 回目の産卵が 6 月 16 日に確認されました (写真右)。さらに 6 月 24 日には、別のカメと思われる産卵を確認しました。8 月初旬まで続く産卵シーズンに、もう少し来てくれることを心待ちしています。



6 月 1 日
上陸後すぐ帰海



6 月 16 日
今季 2 か所目の産卵場所

シロチドリは危機的状況



4 月中旬に初産卵を確認したあと、天敵により消失して以降 6 月まで産卵を確認できていません。6 月に入り海岸でほとんど親鳥を見なくなり心配しましたが、6 月末に 5 羽の群れが確認できました。産卵シーズンが終わりに近づいていますが、何とか 7 月に産卵してくれることを願っています。



愛宕鼻の脇本浜側が崩落（４月）

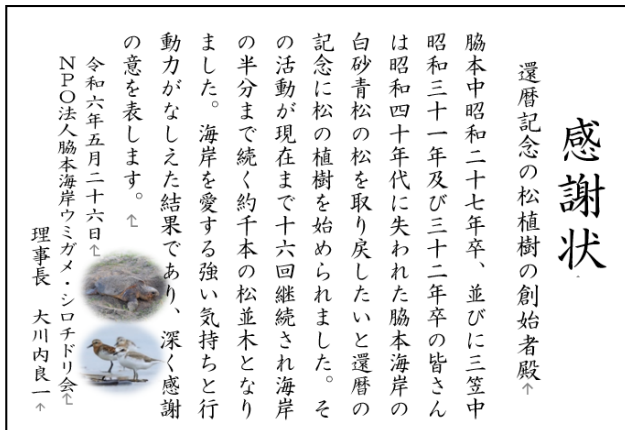
脇本海岸を象徴する景観の一つである愛宕鼻の絶壁が崩落しました。このため市が山頂の展望エリアの安全柵を手前に引き下げる工事を９月以降行うため、柵外となるベンチや写真看板を移動する予定です。現在は展望エリアと海岸の岩場が立ち入り禁止になっています。工事後の様子などの詳細は後続号で報告予定です。

第３回ＮＰＯ通常総会開催（５月２６日）

ＮＰＯ設立３年目の総会を開催し、絶滅危惧種/自然景観保護、海岸管理、自然観光支援など６つの事業について過年度成果と、今年度計画を上程し全会一致で承認されました。

寺島会のメンバーでもある松尾信子氏を理事として迎え、監事は元・馬場区長の野崎繁利氏に交代し、理事５人＋監事の新体制がスタートしました。総会冒頭には過年度にＮＰＯ活動に大きな貢献をされた以下の３者に対して感謝状と記念品を贈呈しました。

- ①本重人氏（景観研修会場提供、自然体験観光連携）
- ②海岸の還暦松植樹の創始者３学年（右の感謝状）
（脇本中 S27 卒、三笠中 S31 及び S32 卒）
- ③鹿児島大学山本教授（ハマグリ調査）



脇本小学校、鶴翔高校で自然保護の講座

・脇本小では例年ウミガメ講座とシロチドリ講座を行っており、今年はそれぞれ５月と６月に３年生全員３６名に対して、ビデオ映像やパネル、ななつ星でも使っているポスターに加えて脇本海岸に漂着した大型アオウミガメの甲羅の剥製を持ち込んで講義しました。やはり甲羅の実物を目の前にすると生徒の目は輝き、講座後も甲羅に触り興味津々でした。講座後には、南日本新聞の記者がＮＰＯメンバーと一緒に生徒の集合写真を撮りました。脇小のウミガメなどの保護活動が評価され環境大臣賞を受賞したことの記念撮影であり後日新聞報道されました。シロチドリ講座では、初公開の貴重な映像に驚きと歓喜の声が上がり楽しい講座となりました。

・鶴翔高では昨年に続き「地元の魅力講演会」として１年生全員７９名に対して自然保護活動を講義しました。講義後は生徒代表より感謝の意が述べられ、海岸の清掃活動に参加したいとの、心強い発言もありました。



（重要なお知らせ）海岸の駐車場が市営から民営となりました

海岸中央にある鳥飼先生の記念碑がある駐車場は、これまで市が借り上げて市営駐車場としてきましたが、地権者の意向で「過去に発生した海岸や駐車場でのトラブルを無くし、住民の安心安全と自然保護をもっと重視するように」と市との契約を解消し、ＮＰＯカメチドリに管理が任されました。これにより正式名称を「鳥飼先生記念碑駐車場」へ変更し、地権者の意向に沿う管理を行い自然保護の取組を強化します。ご理解とご支援をお願いします。

